

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2791600238		
法人名	社会福祉法人 六心会		
事業所名	グループホーム 里(みちのり)		
所在地	大阪府吹田市千里山竹園1丁目50番18号		
自己評価作成日	令和4年5月10日	評価結果市町村受理日	令和4年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設9年目の施設になります。他の事業所の特別養護老人ホーム・小規模多機能事業所と同じ建物内にあり、利用者の変動する介護度やニーズに合わせたサービスの提供ができるのが特徴です。また、他の事業所との差別化を図るため、認知症のケアに特化したサービス提供を心がけています。特に音楽療法に力を入れ取り組んでいます(現在コロナ禍で一部中止)現在ではコーラスの取り組みが「グループホーム吹田合唱団あおぞら」として吹田一円のグループホームに広がっていますまた、支援困難事例への取り組みにも力を入れています。そのため人材育成に心がけ外部・内部研修の両方に力を入れて取り組んでいます。また、各ユニットには空調ダクトから除菌防臭効果のある薬品(リスパスNEO=クレベリン)が排出されており、全館の衛生管理が行われています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業主体である社会福祉法人「六心会」が運営する事業所・里(みちのり)は離宮千里山施設内にあり、地域密着型特別養護老人ホーム・小規模多機能ホームが入る施設の2階部分に位置する。地域住民に広く認知され地域交流・活動も活発に行われてきたが、コロナ禍で様々な制限あり中断している。平成医療福祉グループと連携し「六心会」の理念と事業所理念「7項目のケア方針」を唱和する事で全員の意識向上・周知を図っている。平均介護度の高い中でも利用者の思い・家族の要望を傾聴し寄り添い、利用者のQOL向上に沿い支援している。法人全体で人材育成を計画的に取り組み、内部・外部研修を積極的に行い各種資格を有し介護技術・知識度も上げている。「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」を導入し、OJTに取り組み「介護の質向上」に向けて研鑽を積んでいる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	六心会法人理念と離宮千里山ケア方針の唱和を毎日行っています。(離宮千里山ケア方針はグループホーム改訂版・グループホーム里の理念を明記)毎朝の唱和ですトップに周知できるように取り組んでいます。	法人理念とケア方針(7項目)の唱和を毎朝行なっている。管理者はケア方針に照らしてずれていないかなど、日々の感じた事を職員に質問をし確認している。理念・方針に各自ずれが無いかなど、月1回の会議を行い、方針を基にカンファレンスを行い、周知・確認・共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、近隣のケアハウスと祭りの相互訪問での交流や隣の老人ホームとのコーラスの合同練習を行うこと、近所の保育所・幼稚園の園児の慰問や行事を通して交流をしていました。現在では難しい状況です。	地域の情報は法人本部からと運営推進会議メンバーより情報収集している。地域交流は中断しているが年末に、ぽっぽ保育園からの訪問がありエントランスホールで手作品と歌の披露があり、事業所からは園児に菓子を振る舞った。コロナの感染状況を観て、法人内で利用者が出来ることの支援で「認知症カフェ」を考慮中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は認知症カフェの運営を行い、地域の皆さんに開放していました。学ぶ・相談する・和むをコンセプトに認知症カフェの運営を通して地域貢献に取り組んでいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営体制、事故報告、活動報告などを報告し意見や提案を伺う会議になっています。令和2年度の運営推進会議はR2年9月、R3年3月の2回感染状況をみながら、とり行うことができました。今後は会議のやり方も含め検討が必要に思います。	運営推進会議は感染状況により、書面開催と多目的室でメンバー参加で行い、年3回は法人合同年3回は事業所単体で実施している。議事録は利用者家族に郵送、事業所でも公開している。「里を歩む便り」として事業所の活動内容や日々の生活の様子など、コロナ以前より更に多くの写真を撮り、月1回家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉室や福祉指導監査室に随時、連絡をとり指導・助言をいただいています。また、コロナ禍以前は吹田市の事業者連絡会や地域ケア会議に出席し、関係性を築けていました。現在は他のGH管理者とはLINEなどで、やり取りしています。	吹田市ケアクラブ(情報発信)に入会し情報収集している。高齢福祉課・指導監査室・介護保険課・包括支援センター・国保連など必要に応じ相談・連携している。介護保険事業所連絡会に参加しBCPの取り組み等、ズーム会議で検討会を行っている。他事業所とも電話やラインで連携し情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の体制及び防犯上の都合から2階エントランスの玄関(道路に直結)は施錠しています。離設の危険性から玄関の鍵を外すには厳しい部分があります。	「身体拘束適正化指針」に基づき会議を行い議事録は全職員が確認している。毎月の会議時に勉強会30分間、年2回以上の法人合同での研修会を行っている。玄関は道路に面し危険性と防犯の為施錠しているがユニット間は行き来でき、エントランスホールが広く閉塞感を感じ無いよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会(管理者及び各ユニットリーダーの役職者で構成)での取り組みや外部研修への参加及び施設内における内部研修を行い、人権意識の向上に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、また利用者の方においては現在4名の方が成年後見制度を活用されています(後見1名、保佐1名、補助1名、親族後見1名)また、担当される弁護士、司法書士との連携を密にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を家族様に説明し、理解、納得していただけるように対応しています。また、再度の申し出があった場合は、再説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様との関わりを持つ際に要望などをお聞きし管理者や職員間などで情報を共有するように取り組んでいます。また、運営推進会議に参加をご案内し意見や要望を聞くようにしています。参加できない家族様には運営推進会議開示資料を送付して、ご意見やご要望を聞くようにしています。	家族の意見で毎月の事業所便りに1ヶ月先のスケジュールを載せて欲しいと要望があり、変更した。家族に個別写真をまとめて郵送した事もある。コロナ禍の面会制限でオンライン面会を家族同士のグループラインを希望されてその要望に応じて喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のグループホーム会議においてスタッフの提案や意見を聞く機会を設けるとともに提案などは随時聞くようにしています。また、その意見を運営などに反映しています。	コロナ禍前は年1回の個別面談を目標管理に沿って行っていた。日頃から柔軟に職員の意見や提案を聴く雰囲気があり、また月1回の会議・カンファレンスも行っている。気づきノートを活用し転倒防止のために自動ブレーキの車椅子を購入した等、利用者ケアに関する意見が多く実践にも繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個々の頑張りや努力また勤務状態及び勤務態度などをみて仕事での目標設定やスタッフの意向を汲んだ職場環境づくりに努めています。今年度より介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内における内部研修(認知症ケアの研修を月1回の頻度で行い、また別に施設内研修も月1回の頻度で開催しています。また認知症介護実践者研修の受講を推し進めています。(現在受講者6名)また介護プロフェッショナルキャリア段位制度でのOJTに力を入れて取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田にある事業者連絡会(グループホーム部会)に参加するとともに吹田市のグループホームの若いメンバーで構成されている「わたしにできることプロジェクト」に参加(現在はコロナ禍のためグループLINEで交流)し、同業者との交流に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居される前の訪問調査や事前面談などの機会を設け、不安や困っていることの把握に努め安心していただける関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回サービス提供前の事前面談を行い信頼関係の構築に努めています。またグループホームに来られて祭や訪問面談などの機会を設け、家族様の意向や要望、不安、困っていることの把握に努め信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様との話し合いの中で本当に必要とされているサービスの提供ができるように小規模多機能事業所や特別養護老人ホームなどの他のサービスを提案することもあります。また地域包括との連携をとり在宅への提案が必要な方へは適切にサービス提供ができるように連携をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位のサービスとは？という課題に向き合う環境が整ってきたように思います。その中で暮らしを共にする関係について考え、ケアにあたってくれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の理解と協力のもと、より良いケアとなるように連携を密にとるようにしています。共に利用者を支えていく関係構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう、支援に努めている	ここ1年半のコロナ禍で家族様との関係も疎遠になりがちな状況下で馴染みの人や場所との関係性が継続できるような支援が難しくなっています。コロナ禍で対応を模索中です。	吹田市役所から「面会を控えるよう通達」が来ており、現在もオンライン面会や電話での支援を継続している。入居前にお茶の先生をしている利用者に海外から手紙が届いた例もある。友人知人から電話もあり取り次ぎなど、家族に電話も支援している。また、手紙・年賀状を書く時は、職員が手伝っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや家事を行う中で一人ひとりが孤立せずに過ごせるように努めています。利用者同士の揉め事もありますがスタッフが間に入り対応しています。個別のプランにて対応を充実させていく方向です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の方によって入院で退所された後に再度入所された方が当グループホームに3名います。上記の例だけでなく、今後はより多くの家族様と関係性が継続できるように支援していきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握のためにセンター方式の活用やスタッフの居室担当制を採用し、利用者の意向や要望の把握に努め、難しい時には家族様との連携を密にして利用者本位の立場に立てるよう努めています。	「その人をもっと知ろう」と家族から聞き取りを行い記録し情報共有している。日々のケアの中で気持ち要望など傾聴し、食事を食べない人で生協で好きな物を注文している例もある。「帰りたい」といつも言ってる人には玄関先まで付き添い気分転換など、状況に応じた対応を皆で行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時にはセンター方式(抜粋)を用いての情報収集や面会時に情報を得ています。生活歴や馴染みの暮らしができるように、こころがけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プラン作成時においても計画作成者とスタッフが連携を密にし、現状の有する力の把握に努めます。出来ないことばかりに目を向けずに、できることに目を向けて取り組むようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において家族様(コロナ禍のためTELにて対応)や利用者の意向を聞くこと、訪問看護ステーションの看護師、生活機能訓練のプランニングをお願いしている理学療法士、往診医などの専門家の意見を伺い、より良い介護計画になるよう、状況の把握に努めています。	介護計画は長期1年・短期6カ月の期間とし利用者・家族に意向を聴き、また関係機関の専門家意見を担当者会議に反映している。必ず計画更新時期には家族と話し合い要望など聴く機会を設けている。状態状況変化時はその都度担当者会議を開催し介護計画を変更し家族に了解を得て交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別の申し送りカードに記入し、ワイズマン(ソフト名)への打ち込みなどで情報を共有し、介護計画の見直しなどに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍における現在、家族面会もままならない状況です。現状ではオンライン面会や2階エントランスからのガラス越しの面会で対応しています。一人ひとりの生活を支えるためにできる対応を考え多機能化に取り組めます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状のコロナ禍では、難しいのですが以前は、近隣の高齢者施設との連携や自治会などの催しものに参加することやボランティアの方などの力をお借りして豊かな暮らしが送れるように支援していました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム1ユニットは日高ドクター(月2回の訪問診療)、グループホーム2ユニットは山本ドクター(月2回の訪問診療)が主治医になります。ドクターと連携を図りつつ、ご家族様の希望をふまえ、受診先を選んでいきます。	入居時に利用者・家族の了承のもと、全員が月2回の訪問診療(内科)を受けている。精神科は月1回、歯科は週1回、希望により訪問診療を受けている。眼科は必要に応じて職員が同行で受診している。受診内容は家族には電話で報告し、職員には申し送りとパソコン入力し、プリントアウトして情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	豊中訪問看護ステーション(月4回の訪問、急変時及び体調不良時)の訪問看護師と連携を密にしながら日々の、ご利用者の状況変化や事故の情報を報告し適切な看護や医療を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時において平成医療福祉グループの豊中平成病院や平成記念病院の看護師、ソーシャルワーカーとの関係構築が進んでいます。また吹田市民病院や徳洲会病院などの病院とも関係構築がすすんでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針や看取りについての指針をととのえ、家族様に説明や同意を得て、できる支援を行っています。また施設での対応を主治医や訪問看護ステーションの看護師と連携をしながら施設でできる対応を行っています。	入居時に看取りについての指針を説明している。重度化の際、医師が家族に説明し、意向を確認した上で、看護師、職員と連携し、意向に沿った支援を行っている。直近では本年2月に看取りを行い、家族から感謝の声を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時における応急手当や事故発生時における応急手当の基礎訓練を定期的に行っています。(GHで行う会議前の研修時間に急変時対応の研修や消防署から人形を借りてきて心臓マッサージの練習等を行っています)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大規模災害時に備えての訓練を定期的実施しています。(火災発生時の想定、水害発生時の想定など)また地域の自治会や特養、ケアハウスとの共同で福祉避難所としての共同訓練を行っています(今年度は実施できず)研修にて地震風水害火災などの知識を身につけるようにしています。	併設の特別養護老人ホームと小規模多機能ホーム合同で年2回避難訓練を行っている。福祉避難所の指定を受け、地域の協力体制はできている。備蓄は近くに池があることから浸水を想定し、水・食料品を2・3階に用意し、安全対策委員が一覧管理している。自家発電機を設置しているが、さらに台数を増やすことを検討中である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格に配慮したケアになるように人権研修や虐待防止・身体拘束廃止・接遇委員会での取り組みを行い啓発活動を行うとともに現状に合わせた取り組みを行っていきます。	接遇研修を年1回行っているが、日常的に言葉掛けに注意している、不適切対応には職員同士で注意し合う環境はあるが、管理者は職員会議で事例に基づき問いかけを行い、皆で考えながら合意形成を図り、理解を深めるようにしている。個人情報関連書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定できる利用者との差があります。自己選択、事故決定できる利用者の方は意思の尊重を自己選択、自己決定の難しい利用者の方には、その方の最善の利益が得られるように考慮します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に添えるように日々の生活の中で予定として取り入れ、取り組むようにしています。現状においては業務優先の時も見受けられますが、そうならないように取り組んでいきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれに配慮できるようまた希望に添えるように心がけています。スタッフの女性職員がお化粧やマニキュアなどの支援を積極的に行ってくれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備においてはホーム内でご飯の炊飯を行い炊き立てのご飯を召し上がっていただき、片づけなどはテーブル拭きや洗い物などを利用者とともにしています。また利用者により食事量の少ない方は施設食を中止して、ご本人の嗜好に合わせた食事を購入し、召し上がって、もらっています。	管理栄養士による献立に基づき調理専門職員が1階厨房で調理している。行事に合わせたお楽しみ企画として納涼祭の屋台やお菓子バイキング、昼食バイキングがあり、選び・味わう楽しさに盛り上がりのひと時となっている。給食委員会があり、食事の硬さや食べやすさなど記録し、利用者それぞれに合った対応策を考え提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じた食事になるよう現在では栄養補助食品+補食の対応であったり、水分をゼリー対応(お茶ゼリー、ポカリゼリー)にしたり甘い飲み物しか飲まない利用者にはシュガーカットを使用する対応を行ったりして個人個人に合わせた対応になるよう心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ご本人の状態に合わせ、通常の歯ブラシやタフトブラシ、歯間ブラシまたは口腔ウエッティーを使い分けています。また訪問歯科クリニックの歯科医より指導を受けて個別の対応を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりに合わせた排泄になるように多様な種類のパットや個別の排泄誘導(個人の排泄パターンに合わせて)をできるように取り組んでいます。今後も状況に合わせた対応になるように観察をしっかりとしていきます。	布パンツ使用が3名、おむつ使用が2名、その他はリハビリパンツにパットを使用している。事業所のケア方針に基づき、排泄最優先の原則を守り、座位での排泄を心掛け、日中は利用者全員がトイレで排泄している。夜間は2・3時間ごとに見回り、安眠にも配慮し柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護ステーションの看護師と情報を共有し、水分量の確保や腹部マッサージなどを行っています。また運動不足にならないように理学療法士と連携をとり、個別の機能訓練に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添えるように声掛けやタイミングをみて入浴しています。仲の良い利用者二人での入浴希望であったり、入浴拒否のみられる方にはスタッフが交代しての対応や同性介助を希望される方には希望に添えるように対応しています。	入浴日は週2回の午前からとしているが、利用者の希望に沿うようにしている。話好きの利用者は40～50分かけて入浴し、リラックスした楽しいひと時となっている。保湿クリームや好みの化粧品を持参している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調に合わせて1日1回の昼寝時間の習慣を大切にしている人や一人ひとりに合わせた寝具類を用意して対応しています。また利用者によってはポジショニングを行い、安楽な姿勢になるように支援を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や容量または副作用について薬の変更時や日頃の申し送り時に情報を共有して取り組んでいます。また訪問看護ステーションの看護師や提携先の薬局の薬剤師から指導をいただき、薬に関する知識を深めるよう情報を共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの楽しみや生きがいになることを支援するため、情報をもとにケアプランを作成し、具体的に取り組めるように努めています。昨今のコロナ禍で外出ができない状況でGHではドールセラピーに取り組む気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状のコロナ禍で外出の支援はかなり厳しい状況です。その中でも、帰宅願望の激しい方には外出をして対応をしています。また、買い物ができないとストレスがたまり情緒不安定になってしまわれる方にはスタッフが付き添い買い物に出かけたり、しています。(マスク等手洗い消毒など感染防止対策を行っています)	日常的には玄関前の花壇の水やりや屋上で菜園の手入れや日光浴を行っている。昨年10月に緊急事態宣言が解除となり、車で緑地公園や植物園に出かけた。桜の季節には近隣の公園に車いす利用者も含め3日間に分けて出かけた。その他は個別に支援している。	コロナ禍前には、歌を歌いたいという利用者の思いを叶え、コーラス隊を編成し、地域を巻き込んだ外部会場での発表会が実現している。事業所では目標を持ち達成感を味わえる外出イベントを検討中である。日常生活での活性化を図りながらの外出支援を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人さまの能力に応じて、自己管理できるご利用者には金銭管理をしていただいています。それとは別に自己管理の難くなったご利用者の方も多く、必ずしもご利用者の希望に添えていない現実もあります。今後の課題として取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からの申し出があれば、いつでも電話での会話ができるよう対応しています。また、コロナ禍での現状を踏まえ、オンライン面会を活用するようにしています。(現実的にはタブレットに映る家族様が認識できない、ご利用者にもおられます)今後も家族様からの協力を得ながら支援していきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間における施設環境整備を行い、エントランスの空間をソファやテーブル、椅子などを配置し、過ごせるように配慮しています。また、ユニットごとに個性的な空間づくりを目指して取り組んでいます。	玄関口で感染チェックを行い、広いエントランスホールにはテーブルソファを配置し、壁面に利用者の手作り作品(洋服、バッグ、刺繍絵など)を飾っている。居間兼食堂は大きな窓があり明るく、壁に紫陽花の折り紙や吊り下げ飾りがある。ウィルス抑制効果のある空気清浄機を設置し、介護サポーターによる清掃も行き届き、居心地良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂及びエントランスが、ご利用者の方の過ごす共用空間になります。食堂のソファやエントランスでのソファが一人になれるスペースになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活雑貨などを持ち込んでいただき、家で生活されていた時の継続性が保てるように支援しています。また、写真などを持ってきてもらい家族や友人との、つながりが感じられるように支援しています。	ベッド、エアコン、クローゼット、防災カーテンが備え付けで、利用者希望で冷蔵庫持ち込みもある。壁面には孫、ひ孫の写真があり、収納家具の上には母の日のプレゼントの花束がある。窓からは風に揺れる緑の木々が見え、床にはクッションシートを敷き、安全面にも配慮した居心地良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの安全に配慮して環境整備をすすめています。ある利用者の方では居室に手すりを設置してトイレまで自己で行けるように環境整備を行っています。また、トイレまでの案内表示や各居室に表札をつくり設置しています。		